

1. ね ら い

この研究では、説明的文章の読みにおいて、児童は、どんなことを手がかりにして、要点をとらえようとしているのか、どんなすじみちで考え、どこでつまずくのかを、明らかにしたい。またそれらの要因に即して、対策を工夫し指導法の改善をはかりたい。

(1) 要点について

ものごとを理解するにしても（読むこと、聞くこと）、大事な点はどこか、どんな意図か、的確に知ることは、極めて大切である。また、何かを表現する場合でも（書くこと・作文、話すこと）、要点を明確にわかりやすく述べることは、特に身につけなければならないことである。

読むことの能力には、文に即して正確に読む力、読む目的にそって、必要な事項を読みとる力、要点を抜き出したり、要約する力、文章の要旨をつかむ力、段落をまとめてよむ力、段落と文章全体との関係をおさえる力、等があげられるが、要点をおさえて読む力は、これらの読みの能力の基盤になるものである。

(2) 要点についての考え方

要点は、「大事なところ」とか「主要なところ」「急所」などという意味で使われている。何をもとに、要点とするかについては、三つの面から考えられている。

- ① 読み手の立場から
- ② 書き手の立場から
- ③ 文章に即する立場から

ここでは、③の文章に即する立場からの「要点」のは握を中心に研究していく。そして、小学校の三年児童を対象とし、段落の要点のとらえ方について、児童の実態を授業を通してさぐっていくことにする。

(3) 要点をとらえる能力の系統

要点をとらえる力は、つぎのように段階的に

指導されることになっている。

- ① ことがらの、だいたいを読む。
 - ・語や、文として読む。
 - ・だいたいのすじをとらえる。
 - ② ことがらの、順序を読む。
 - ・書いてあることの概略を読みとる。
 - ・表現に即して読みとる。
 - ③ 文章の要点を正しく読みとる。
 - ・重要な部分はどこか理解しながら内容を読みとる。
 - ・文と文との関係をとらえる。
(例とまとめ、結論と詳述、問題と結論、事実と意見、本論とつけたし、など)
 - ・要点に特に深い関係のある語句や文を確実に読みとる。
 - ④ 段落ごとの要点の相互関係をつかむ。
 - ⑤ 文章の要旨を理解しながら読む。
 - ⑥ 読む目的や文章の種類、形態などに応じて適切によむ。
- ③の、三年での要点をとらえる学習が、きめ手になるものである。

(4) 前提と考えられる能力

要点を正しく読みとるための前提となる能力には、次のようなものがあると考えられる。

- ① 各文の正しい読み
(ことがらの読み、話題の抽出、何が、どうだの読み、中心語句のは握など)
- ② 段落の話題をとらえる力
- ③ 文と文との関係をとらえる力
(指示語・接読語について理解する力)
- ④ 中心文をおさえる力

(5) 要点は握の困難点

要点をは握する場合の困難点を次のように予想してみた。(これは、教材の難易に左右されると考えられるが、主として、児童の側を対象として)

- ① 「要点」というコトバの受けとり方
このコトバを、くだいて、児童に説明したり